

<第62回調査>

2014年07月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年07月15日(火)13:00~2014年07月22日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は821件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

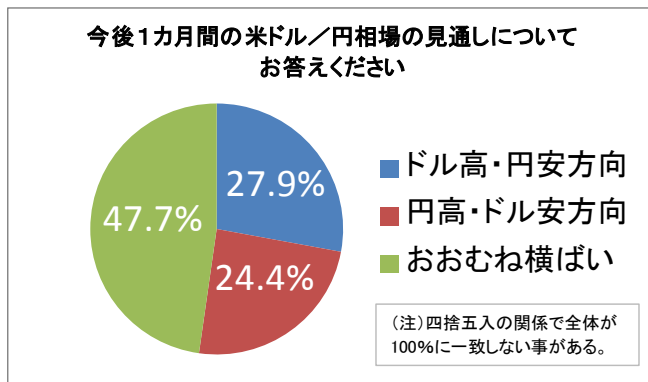
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第62回調査結果略報：米ドル/円予想DIはプラス幅縮小の一途】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

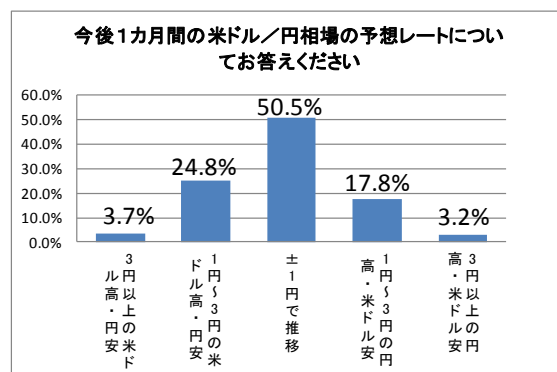
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が27.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は24.4%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+3.5%ポイントとなり、13カ月連続でプラスを維持したが、プラス幅は7カ月連続で縮小。さらにこの13ヶ月間で最小のプラス幅となった。調査期間中の米ドル/円相場は101円台の往来となったが、ウクライナ東部の上空を飛行中の民間旅客機が撃墜された事件や、イスラエル軍地上部隊によるガザ地区への侵攻開始など、地政学リスクが浮上した事から一時101.090円まで弱含む場面があった。こうした上値の重い展開に、個人投資家の米ドル強気・円弱気の見通しが徐々に後退している様子が窺える。

※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「±1円で推移」と答えた割合が50.5%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安」が24.8%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は17.8%、「3円以上の米ドル高・円安」は3.7%、「3円以上の円高・米ドル安」は3.2%となった。ヒストグラムの形状が「±1円で推移」を中心としたピラミッド型に近い事は、「おおむね横ばい」が最多を占めた問1の回答結果と整合的であり、米ドル/円相場が、ここ数ヶ月のレンジを大きく逸脱する事はないと見込む個人投資家が多数派である事がわかる。ただ、「3円以上の円高・米ドル安」とした割合が前回の1.7%から増加するなど、一部には大幅な下落を予想する向きも増え始めている。



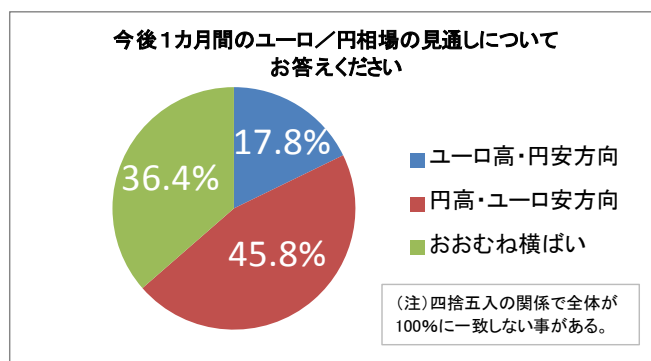
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が17.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が45.8%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲28.0%ポイントとなった。4カ月連続のマイナスであり、マイナス幅は2012年7月以来の大きさとなった。調査期間中のユーロ/円相場は138.40円台から136.70円台へと軟調に推移。6月は(ECBがマイナス預金金利を含む緩和パッケージを発表したにもかかわらず)ユーロが反発する場面も見られたが、7月に入り、再びユーロに下落圧力がかかり始めた事で、個人投資家のユーロ弱気・円強気予想が勢いを増しつつあるようだ。

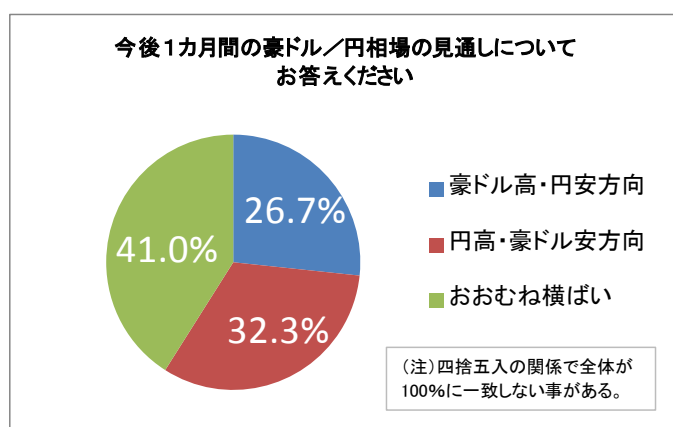
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が26.7%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は32.3%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▲5.6%ポイントと、5カ月ぶりにマイナス圏に転落した。調査期間中の豪ドル/円相場は、94-95円台で比較的小幅な値動きが続いたが、地政学リスク(ウクライナ・イスラエル情勢)への懸念などが重石となって上値の重い展開であった。この他、調査期間の前週に豪準備銀行(RBA)のステーブンス総裁が「豪ドルの水準は、米国の引き締めを考えると高すぎる」などと発言した事などが、個人投資家の見通しを軟化させたものと推測される。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

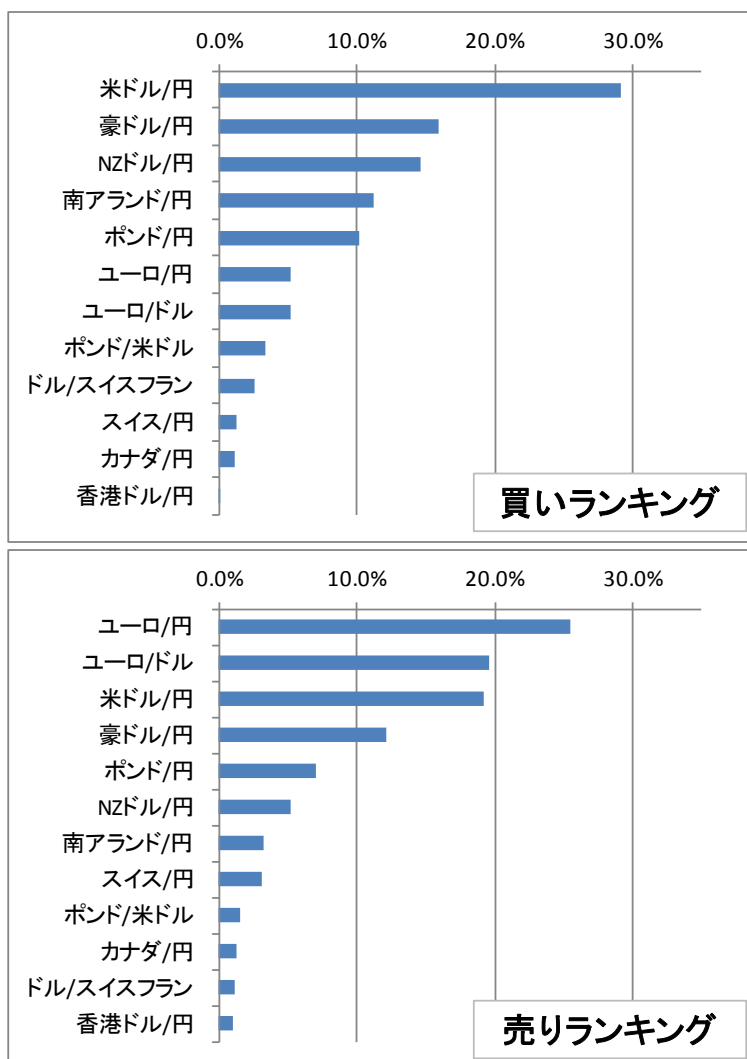


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(29.1%)、2位豪ドル/円(16.0%)、3位NZドル/円(14.6%)、4位南アランド/円(11.2%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/円(25.5%)、2位がユーロ/ドル(19.6%)、3位米ドル/円(19.2%)、4位豪ドル/円(12.2%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が21カ月連続で1位をキープ。また、4位までの順位も前回と同様であり、回答割合にも目立った変化は見られなかった。「売り」で注目の通貨ペアについても前回から順位に変動はなく、回答割合もおおむね変化がなかった。為替市場が全体的に動意が乏しい中では、個人投資家の相場見通しにも変化が生じにくいと見られ、結果的に注目する通貨ペアも変わらないという事だろう。また、米ドル/円と豪ドル/円が買いと売りのランキング上位にそれぞれ顔を出している点からも、為替市場のテーマ不足を窺う事ができる。

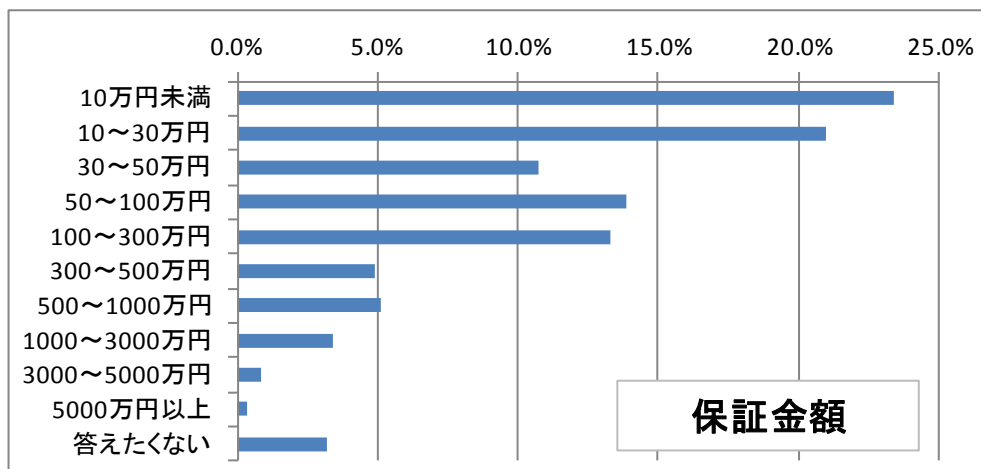


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

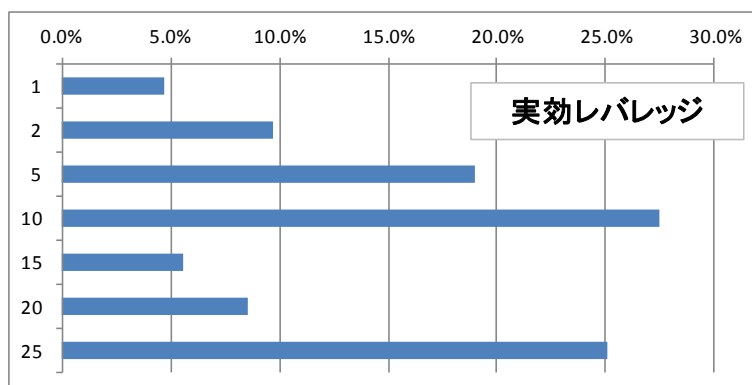
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が23.4%と最も多く、以下「10～30万円(21.0%)」、「50～100万円(13.9%)」、「100～300万円(13.3%)」、「30～50万円(10.7%)」と続いた。前回との比較では、「10万円未満」が減少した一方、「10～30万円」が増加したほか、「100～300万円」が減少した一方で「50～100万円」が増加するなど、微妙な変化が窺えたものの、明確な方向性が感じられる変化ではなかった。ただし、300万円以上とした合算割合については前回の13.9%から14.7%に2ヶ月連続で増加しており、低ボラティリティ相場の中で、一部に保証金を増やす動きがあるようにも感じられる。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が27.9%と最も多く、「25倍」が26.1%、「5倍」が20.2%と続き、以下、「2倍」が8.3%、「20倍」が7.6%となった。ここ数ヶ月は、順位にも回答割合にも大きな変動がなく、「5倍」、「10倍」、「25倍」の上位3つの合計が7割を超える傾向もほとんど変わらない。ここ数ヶ月間は相場環境に大きな変化がなかっただけに、個人投資家の実効レバレッジにも変化が表れにくいのかもかもしれない。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家の平均実効レバレッジは12.7倍であり、ここでも前回(12.9倍)と大きな違いは見られなかった。

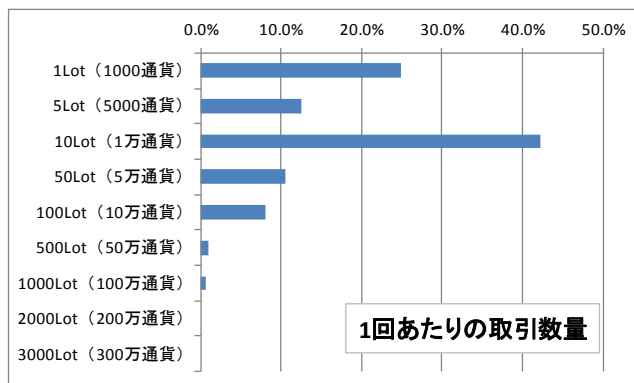


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

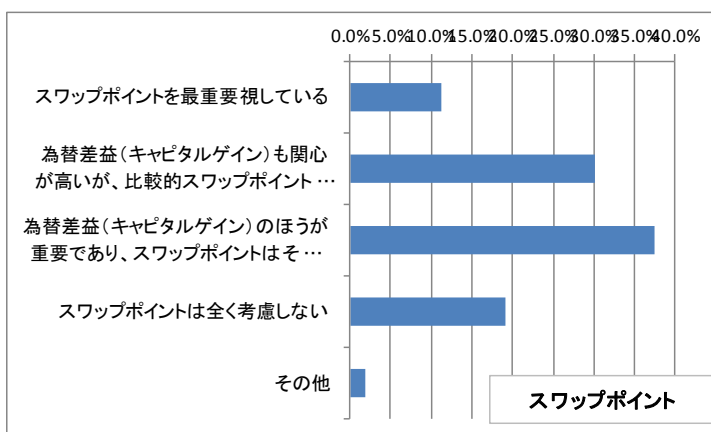
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が42.3%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が25.0%、「5Lot(5000通貨)」が12.5%、「50Lot(5万通貨)」が10.6%、「100Lot(10万通貨)」が8.0%と続いた。「10Lot(1万通貨)」と答えた割合は、前回の38.3%から増加した一方、「1Lot(1000通貨)」とした割合は28.2%から低下した。この点からは、米ドル/円を中心に小幅な値動きが続く中で、一部のFX投資家が売買数量を増やしている可能性が感じられる。ただ、100Lot(10万通貨)以上とした合算割合は前回の11.0%から9.6%に低下しており、いわゆる「大口」の取引は減少気味のようなのだ。



問9: スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは(ひとつだけ)?

今月の特別質問項目として「スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは(ひとつだけ)?」と尋ねたところ、①「為替差益のほうが重要であり、スワップポイントはそれほど気にしない」が37.5%でトップ、次いで②「為替差益も関心が高いが比較的スワップポイントを重要視」が30.1%、③「スワップポイントは全く考慮しない」が19.1%、④「スワップポイントを最重要視」が11.3%、という結果であった。また、その理由を自由記述形式で尋ねたところ、①からは「低金利のため気にするほどの金額ではない」との回答が目立ったほか、②からは「中長期のポジションだから」、③「デイトレードが基本だから」、④「長期保有が前提」などの回答が寄せられた。当然ではあるが、投資スタイル(主に投資期間)によってスワップポイントに対する姿勢が異なるという事だろう。

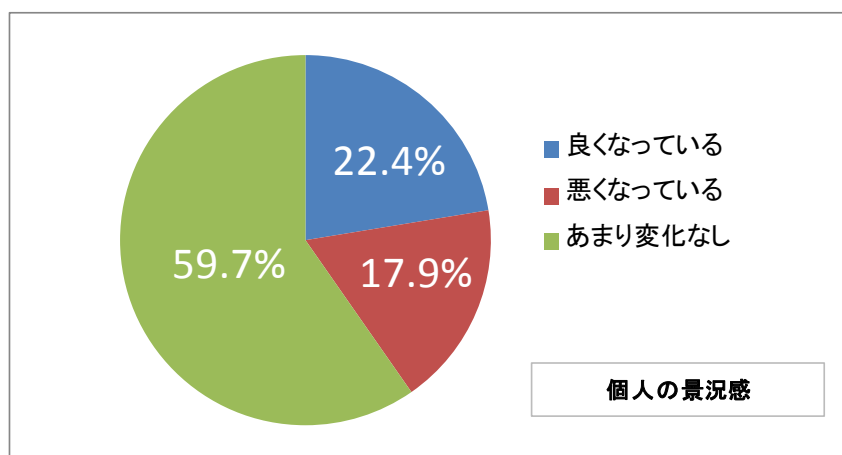


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

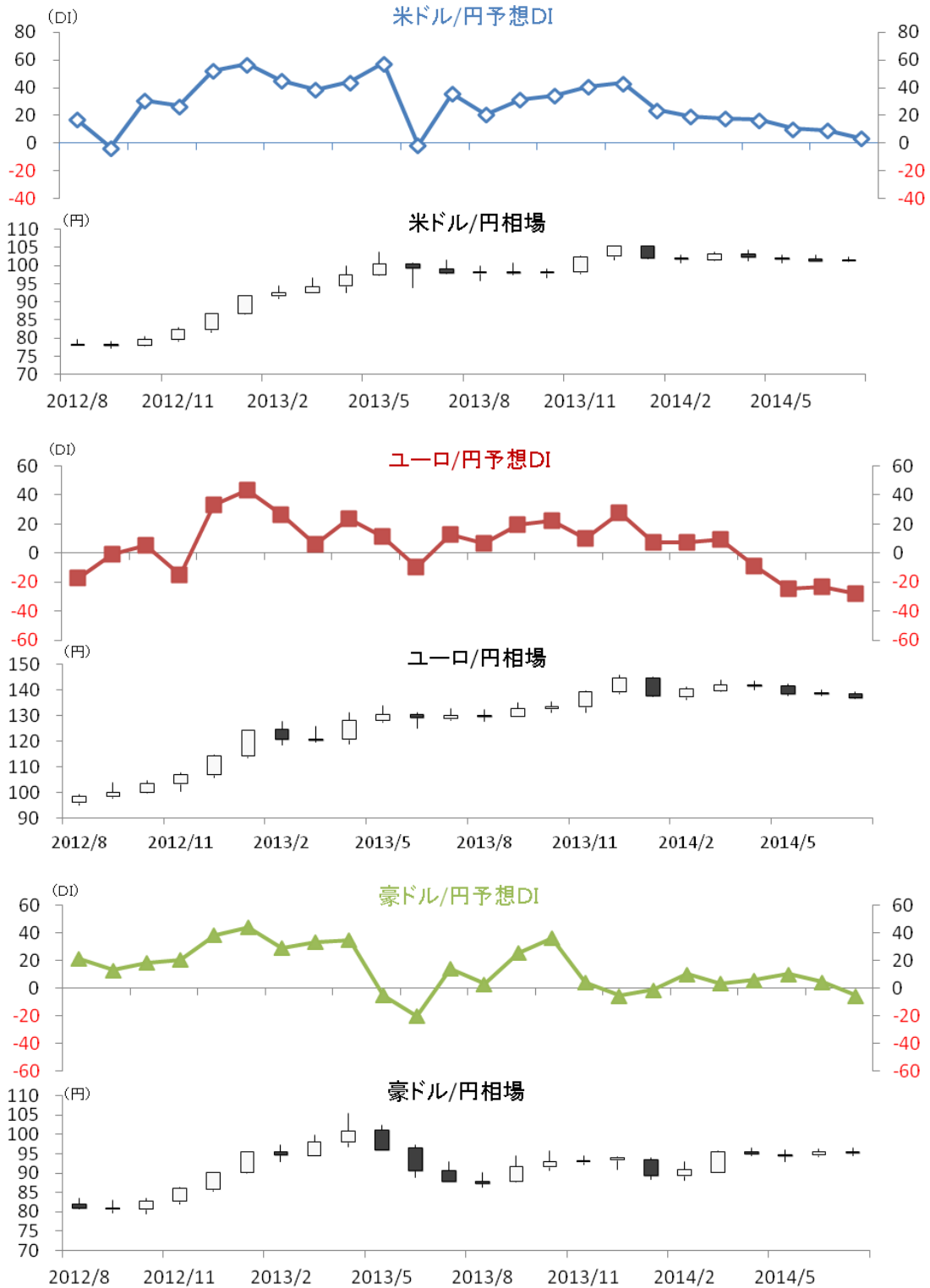
今月のもうひとつの特別質問項目として「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が22.4%であったのに対し、「悪くなっている」が17.9%となった。また「あまり変化なし」が最大の59.7%となった。前回、同じ質問をした第59回調査の結果が「良くなっている(17.8%)」、「悪くなっている(19.7%)」、「あまり変化なし(62.5%)」であったことから、個人の景況感はこの3カ月間でわずかながら改善したと言えるだろう。第59回調査の期間中の米ドル/円相場は101.50~102.70円のレンジで推移しており、今調査期間よりもやや円安・ドル高水準だった。ただ、13900~14600円台で推移していた日経平均株価が15100~15400円台に水準を切り上げており、これがFX投資家の景況感改善に寄与した可能性がある。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第62回目となりました。調査開始から5年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com